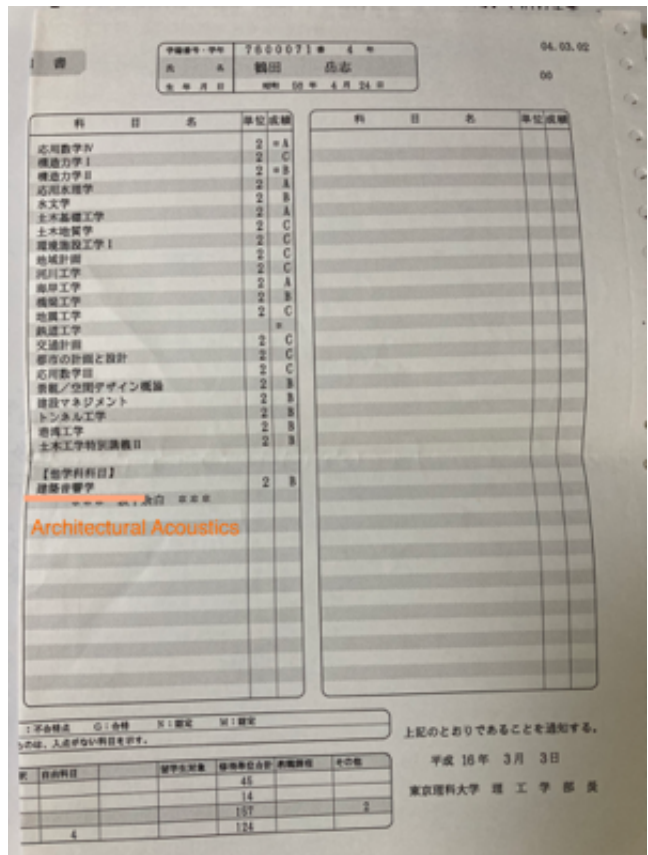
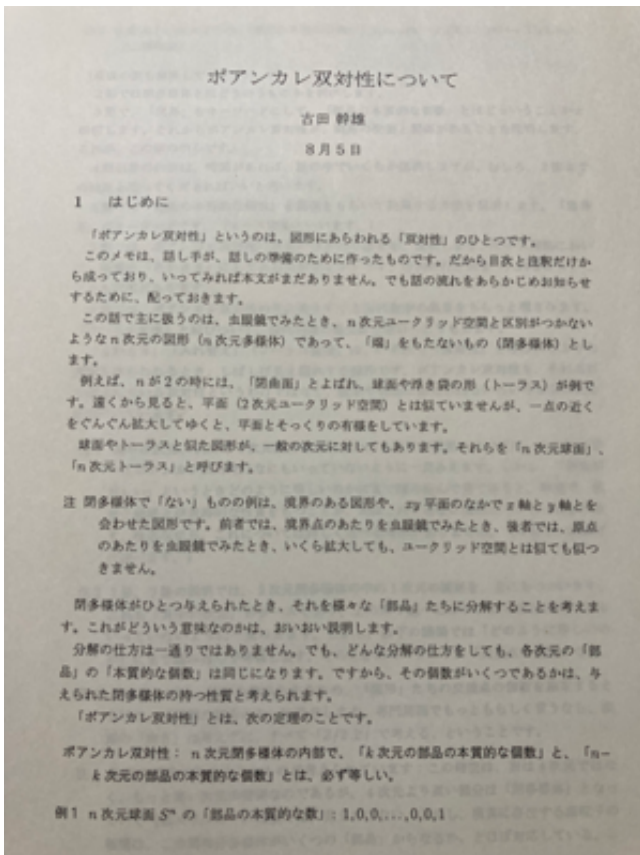


その他のトピックス16

私の学習スタイルについて 😊 (2022/05/20)

みなさんは私のこの学習スタイルが奇妙に見えるかも知れませんが、今日はそのことについて簡単に説明したいと思います。😊 私は高校ぐらいから、数学を学んでいくうちに自分で定理が作りたいたいと思い始めました。そして、私が学んだ数学の定理の多くは、自然現象（物理等）を理解するために作られたものとわかりました。したがって、大学の進路を考えるのに、数学科が良いか当時悩みました。😊

また、「大学への数学」という本（雑誌）に載っていた地元の千葉大学の数学科で高校生3年生の夏休みに、「高校生のための現代数学案内」という高校生対象のセミナーのようなイベントに参加していました。「双対性」がテーマでしたが、扱う次元が多くなる（例えば、7次元等）とわからなくなったの思い出します。😓 下の左の写真は当時いただいた資料です。😊 この時に、大学で数学科に進んだ場合に、私の望むものが得られるかはかなり不透明だと感じました。



ちょうど、高校生の時には音響に興味があったので、大学ではそれにまつわる研究が良いと思い、建築科が良いなと思いました。しかし、受かったのは土木工学科でした。😓

この大学生の間も、上の右の写真のように実は建築科の建築音響学を学んでいました。😊この建築音響学を学んだ時に、面白かったのですが、私の望むものがそこにはないと感じました。

この前に書きました、大学に入学する前に私がフーリエ変換に興味があったのは、音色を科学的に捉えるために必要だからです。😊もちろん、音も三角関数で表せます。

この大学生で私が学んだ事は、既存の研究分野で私の望むものが得られない、または得てもかなり少ないという事でした。😊

大学の研究室に配属された時に、研究テーマを選ぶ際に、伸びしろがありそうな分野であれば、その中で私が貢献する可能性が高くなると考えました。候補として、カオス系・生物系・地形マッピング系が良いと思いました。

カオス（理論）は簡単に言いますと、予測ができない現象を説明しようとする研究分野です。また地形マッピングは、衛星を使った、地形の地図を作る研究だと記憶しております。

各研究室の紹介のプレゼンが行われたのですが、お世話になった構造力学が専門の指導教授の方が、「一緒に脳に汗をかいてみませんか？」と仰っていたのが、とても気になりその研究室に入りました。その研究室ではカオス系を絡めた構造物の研究を始めてばかりのようでした。したがって、カオス系の研究をすることになりました。指導教授がとても良い方で、研究に対する心構え、テーマ等の選び方等を学ばせていただきました。ただ、私には足りない数学の分野等が、沢山見つかри、卒論も基本的なカオス系の研究になりました。😓

大学の在学中に、大学院に進むのか、就職するのか等の進路でどうやって私の求めるものを手に入れられるのかを悩みました。🤔結果的に大学院ではなく、国家公務員を目指しました。これに落ちましたが、この試験勉強中に「工学の基礎」という試験範囲があるのですが、それが面白くてためになりました。😊これは、工学系全般の機械工学や、電子工学等ありました。😊

その後、私も求めるものをどうやって手に入れられるのか

を考えた結果、自分の研究とは別に職を身につければ良いという結論に至りました。😊この時に、会計士ができる仕事に範囲が広いことがわかりました。例えば、企業に対する監査、ベンチャー企業の支援等色々経験できそうだと思います。😊そして、私は会計学や経済学を図書館を回りながら家で学んでいきました。😊結果的に、大学卒業2年後に、会計士の専門大学院も受かったのですが、私の当初の目的からより沿った京都大学院のMBAへ入学を選択しました。😊会計士の資格は別に取れば良いと思っていました。😊

Keywords: 学習スタイル, 数学, 定理, 音響, フーリエ変換, カオス, 構造力学, 工学の基礎, 会計士, 監査, ベンチャー企業, 会計学, 経済学, MBA

リストロサウルスより強くなりたい😊 (2022/05/14)

以前にWired UKの[ポッドキャスト](#)の先週のエピソードを聴いていました。恐竜や哺乳類の先祖の話がありました。とても面白かったです。ありがとうございます。😊その中でリストロサウルスという絶滅を逃れた恐竜に興味がありました。そこで、少し調べてみました。ナショナルジオグラフィックの[「Lystrosaurus: The Most Humble Badass of the Triassic」](#)の記事が参考になりました。ありがとうございます

います。😊以下はその記事の引用になります：

リストロサウルス:三畳紀の最も謙虚なタフなやつ

地球史上最も偉大な生存動物の1種は、リストロサウルスという名前の謙虚な生き物でした。それは犬サイズの動物で、その独特の血統は約2億7000万年前に進化し、豚とトカゲの混血のように見えました。鼻の穴が見える顔と伸びた足、それはおそらく毎晩自分の巣を掘った強力な前足を持つ穴掘り屋でした。そしてどういうわけか、それは世界が今まで知っていた中で最悪の大量絶滅を生き延びることができました。

彼らは確かに私たちと1つの共通点がありました:彼らはペルム紀の預言者のように、災害に対処するために地下にトンネルを掘ったことです。リストロサウルスの頭蓋骨の形は、それが穴掘り屋だったことを示唆しているが、その樽のような胸は汚染物質でいっぱいほこりっぽい空気でも十分な酸素を引き込むことができる肺を保持していたかもしれない。地下で多くの時間を過ごすことは、気候がおかしくなりつつある世界では良い生存戦術です。地下の食料源は、日光を遮る浮遊粒子の影響を受ける可能性が低い。

リストロサウルスの地下生活への適応は、何世紀にもわたって大気がほこりと灰でいっぱいだった世界のためにそれを準備した可能性もあります。これらの大きな肺は、シベリア火山が噴火するにつれて呼吸するのに最適な方法だったかもしれません。

リストロサウルスが生き残ったもう1つの方法は、単に歩くことでした。たくさん。過去150年かそこらに古生物学者が発見した膨大な数の化石に基づいて、リストロサウルスも偉大な放浪者だったようです。これらの遊び足の生き物は、南に切ることによって、シベリアの火砕流の最悪の影

響のいくつかから逃れることができました。リストロサウルスは、遠く離れた場所に新しい生態系のニッチを見つけるのが得意でした。それは、少なくとも3つの新種、おそらくそれ以上に進化し、ゴンドワナと呼ばれるパンゲアの南部に適応しました。彼らは非常に成功したので、初期の三畳紀のある時点で、これらのシナプスは陸上で最も一般的な脊椎動物でした。

もちろん、リストロサウルスの生存も運にかかっているかもしれない。三畳紀初期には、食物網が流動的だった。この時代の食物網を研究してきたカリフォルニア科学アカデミー古動物学者ピーター・ループナリンによると、多くの生態系は長期的に無傷のままではあまりにも不安定でした。ワニの激しく歯ごたえのある祖先を含む、単に捕食者が多すぎたかもしれません。しかし、何らかの理由で、これらの動物はどれも草食動物のリストロサウルスを捕食していませんでした。おそらく、長さ3フィートで、リストロサウルスは食事として魅力的になるには少し大きすぎました。

一見自然の捕食者がいないように見える、地下に住む能力、そして飽くなき放浪癖で、リストロサウルスは三畳紀の恐ろしい世紀初頭に繁栄しました。これらの一見止められない動物は、世界が今まで耐えた中で最悪の大量絶滅から回復するのを見守った。

今日、リストロサウルスはプレッパの単なるロールモデルではありません。それはまた、私たちが地球を理解する方法を変えるのにも役立ちました。リストロサウルスの化石は、その骨格がアフリカ、中国、南極を含む世界の多様な地域で発見されたため、1960年代後半にプレートテクトニクスの最も説得力のある証拠のいくつかを提供しました。彼らの遺骨のこの分布は、大陸がかつてつながっていた場合にのみ説明することができ、これらの陸上動物はあ

る地域から別の地域へとさまようことができました。

しかし、これらの動物について本当に刺激的なのは、彼らが致命的な戦士でなくても生き残ったことです。彼らは保護のための巨大な歯も装甲板も持っていなかった。代わりに、彼らは自分の行動を新しい環境に適応させ、できる限りどこにでも住むことによって、初期の三畳紀を生き延びました。これらの奇妙なトカゲ豚が大量絶滅を乗り越えることができれば、結局のところ人類に希望があります。特に、私たちが食べようとしている巨大なワニがない場合。

リストロサウルスがどのように穴掘り放浪者になったかはわかりませんが、彼らは自分で生活する環境を変えることが出来たから生き延びたと私も思いました。😊私も以前はこのシステムから逃れるために、色々な場所に行ったりしたりしてました。😅しかし、随分前から、自分で環境を変えるしかないと思うようになりました。😓私だけでなく、みなさんもリストロサウルスとは違い、生活する場所を変えることなく、その環境を変えられる力を持ちうると思います。😞

Keywords: リストロサウルス, 三畳紀